

「季節に関わることは、キリストに関わることは」

早くも今年最後の12月となりました。多くの教会において、教会行事としてクリスマス礼拝や祝会、キャンドルサービスが行われます。国分寺キリスト教会でも諸集会が開かれますので、ぜひお出かけください。12月という忙しい中でも、守られて過ごすことができますように。



日本には四季があるために、その四季と密接に関係したことはあります。私の手元に「心の風景」(青菁社、2001年第1刷・古本購入)があり、「ぬくもりの風景」という項目のp164を見てみますと、夜の雪景色となっている函館ハリストス正教会の写真が載っており、その下には「友待つ雪」ということはこう説明されています。「雪はとけては降るを何度も繰り返し、とける回数が減り、降り積もる回数がまさるようになると根雪へとなくなっていきます。根雪の直前、あとから降ってくるのを待つように、かろうじて白さを保ち、消え残っているその雪のことを友待つ雪といいます。…」と。雪がほとんど降らない香川県ではあまり想像できません。「初雪」、「粉雪」、「牡丹雪」そして「吹雪」、「風花」など雪に関することはたくさんあります。私が小学生の頃は群馬県南部でも今よりは雪が降り、実家には小さな「かまくら」(かろうじて上半身だけが入れられるような大きさ)を作った時の写真があります。かまくらと言うよりも雪をかき集めて作った山に穴を掘ったようなものです。良き思い出です。

「友待つ雪」について少し書きました。12月はクリスマスですが、この時期は「待降節」(アドベント)と言って、救い主イエス・キリストの誕生(降誕)を待つクリスマス前の約4週間の時期を指します。今年は11月30日(日)から始まり、12月24日(水)のクリスマスイブまでです。実際にはすでに救い主イエスは2000年前にお生まれになられたので、誕生(降誕)を待つというよりも、降誕されたその意味を思い巡らす時と言えます。

聖書(新改訳聖書2017)のヨハネの福音書1章14節には次のように書かれています。

「ことは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。」

「ことは」とはイエス・キリストのことを指しています。永遠に存在されるお方が、この罪と暗闇の満ちた世界にマリアを通して、赤ちゃんとしてお生まれになりました。それはやがて十字架の死と復活を経験するためでした。この福音書の著者ヨハネは「父のみもとから来られたひとり子としての栄光」と記します。父とは神様のことを指しています。またここでの「栄光」とは、イエス・キリストがこの地上に罪なき聖いお方としてお生まれになったことであり、「生まれる」ことによって神様の偉大さと素晴らしさ、そして「共におられる」というご臨在の事実が現されました。

かつてのイスラエルの民が「天幕」に満ちた神様の「栄光」を目撃したように、ヨハネたちは、人々の間に住まわれた御子イエスさまの中に栄光を目撃しました。旧約聖書の出エジプト記には神様は「恵みとまことに富み」(出エジプト記34:6)と書かれていますが、著者ヨハネは御子イエスさまが「恵みとまことに満ちておられた」ことをこの箇所証言しています。

神の御子イエスさまは人となって、この世界にお生まれになりました。そして、私たち人類の罪を赦すために、罪人である私たちの身代わりとなって、十字架の上で苦しまれ、死なれました。神様が主導権をとられて、その愛を受ける資格のない人間に、私たちにその愛を注ぎ出してくださいました。イエスさまは神様が遣ってくださった救い主であられるからこそ、一人一人の心を本当の喜びと平安と希望で満たすことのできるお方です。

神様によって惜しみなく注がれた愛のゆえに、神様の愛と赦しの中で生きることができている道を備えてくださったのです。クリスマスは神の御子イエス・キリストがこの世界にお生まれになられたことを互いに祝うときです。世界最大のプレゼントである救い主イエス・キリストをぜひ心にお迎えし、本当のクリスマスを共にお祝いすることができますように、寒さが続くゆえ、皆様のご健康が守られ、支えられますようにお祈りいたします。